

日米医学医療交流財団 留学助成

**B 項 研修報告書** ( 2009 年度 助成者)

作成日 2009 年 8 月 26 日

氏 名	山田 徹
研修先機関名	Division of Thoracic Surgery, UHN University of Toronto Division of Cardiac Surgery, University of Pittsburgh Medical Center
研 修 期 間	2009 年 5 月 9 日から 2009 年 7 月 12 日まで
現在所属機関名	京都大学大学院医学研究科
分 野	呼吸器外科学
役 職	大学院生

上記 2 施設にて、肺移植の臨床、研究に関する研修を主目的とし、その他にも一般胸部外科学、心臓血管外科学の臨床見学、研修を行うことができました。

5 月 9 日より 6 月 13 日の 5 週間、Division of Thoracic Surgery, UHN University of Toronto に滞在しました。この間、心肺移植 1 例を含む肺移植 9 例を見学することができました。その他にもドナー肺摘出に同行する機会を 6 回もつことができました。ドナーの出現に依存するため、脳死肺移植は予定することはできず、常に緊急手術として行われます。このため、肺移植プログラムの Clinical Fellow と一緒に行動し、肺移植の無い時は移植術前患者の評価、術後患者の管理を見学、研修することができました。それ以外の時間には多くの一般胸部外科手術も見学することができました。

日本ではまだ行われていない心停止ドナーからの肺移植も 2 例見学することができました。うち 1 例はドナー肺摘出にも同行することができ大変勉強になりました。日本ではまだ大動物実験の段階にある、心停止ドナー肺、あるいは境界領域ドナー肺の Ex vivo 灌流装置による肺機能評価も 4 回見学することができました。

また、以前に国際学会で知り合っていた Research Fellow と連絡を取り、肺移植に関連する大動物実験にも参加、見学することができました。今回の海外研修以前から興味を持ち、京都大学においても準備を進めていた実験と同じ分野の実験でしたので、今後の京都大学における実験の進行に大いに寄与するものと考えます。

自己紹介を兼ねて、今までの研究成果等を発表する機会も与えて頂き、たくさんの意見を頂くことができました。

6 月 14 日からはデトロイト経由でペンシルバニア州、ピッツバーグにある Division of Cardiac Surgery, University of Pittsburgh Medical Center へ移動し、引き続き臨床肺移植を中心とした見学を行いました。

Toronto と違う点は、心臓外科医が肺移植を行っている点です。このため、4 週間の見学期間中に、肺移植 7 例のほかに、心臓移植も同じ 7 例見学することができました。Clinical Fellow と同行し、術前、術後の移植患者管理も Toronto 同様見学することができました。手術手技の違いのほかに、術前術後管理の方針が、移植医療において重要な免疫抑制剤の Protocol も含めて異なっており、肺移植症例数の豊富な 2 か所の施設で臨床見学を行えたことは、大変有意義であったと考えています。

Pittsburgh でも Toronto 同様、自己紹介を兼ねて今までの研究成果と日本における肺移植の現状について発表する機会を与えて頂き、たくさんの意見を頂くことができました。

今回の海外研修で得られた知見を、今後の日本における臨床、研究に役立て、日本の肺移植医療の発展に寄与できるよう努力していきたいと思ひます。